名寄市立大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2018（平成30）年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2022（令和4）年度＞

名寄市立大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、4点の改善課題及び1点の是正勧告の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

大学評価の結果を受けて、各学科のほか、大学全体の質保証を担う「内部質保証推進委員会」からの要請を受けた「学科長等会議」において、改善に向けた取り組みを実施している。しかしながら、依然として内部質保証に関わる諸組織の役割分担については不明確であることから、内部質保証システムに関する点検・評価を行い、適切な内部質保証システムを整備したうえで、依然として残る各種問題点について、確実に改善していくことが求められる。

＜改善課題、是正勧告の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいいがたい。

是正勧告については、学生の受け入れに関し、編入学試験の実施を開始しており改善に取り組んでいることが確認出来るが、編入学生の定員管理に問題があるため、引き続き改善を図る必要がある。

改善課題については、内部質保証の推進に関わる学内組織の役割分担の明確化等の問題や、教育課程・学習成果における単位の実質化及び学位授与方針に示した学習成果の把握・評価の問題、教育研究等環境における教職員の研究環境の整備に係る問題については、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。

1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準5 学生の受入れ
	提言（全文）	2013(平成 25)年度から 2017(平成 29)年度の3年次編入学試験に関して、栄養学科は 2013(平成 25)年度、2015(平成 27)年度、2016(平成 28)年度、2017(平成 29)年度に、社会福祉学科は 2017(平成 29)年度に、学則に入学定員の定めがあるにも関わらず、

名寄市立大学

		3年次に欠員の予定がないことを理由として実施されていない。試験を実施するとともに、定員管理については適切な方法で行うよう是正されたい。
	検討所見	栄養学科では2019（令和元）年度から、社会福祉学科では2018（平成30）年度から3年次編入を実施しており、2019（令和元）年度と2021（令和3）年度に入学者を各1名受け入れていることから、編入学試験の実施が認められる。しかし、定員数は満たしていないため、適切な定員管理を実施するようさらなる改善を行うことが求められる。

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準2 内部質保証
	提言（全文）	<p>2017（平成29）年度に設置した「内部質保証推進委員会」は自己点検・評価やそれに基づく改善活動に関し、権限や「部局長会議」はじめ他の全学組織との役割分担が明確になっておらず、内部質保証体制が十分に整備されていない。</p> <p>また、「内部質保証推進委員会」が点検・評価の結果に基づく改善を行うに際して4学科を運営・支援し、質を保証していく仕組みや内部質保証システムの適切性を定期的に点検・評価する仕組みも明確でないことから、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>「内部質保証推進委員会」が全学的な教学上の課題の検討を行っていることは確認できるものの、「内部質保証推進委員会」について、その目的の1つを「大学運営に係る内部質保証の推進を図ること」と規定する一方で、「部局長会議」が大学運営全般を担うとしており相互の役割分担が不明確であるほか、そのほかの全学組織との役割分担についても明確にしていない。さらに内部質保証システムの適切性を定期的に点検・評価する仕組みも明確ではなく、引き続き改善が求められる。</p>

名寄市立大学

No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	単位の実質化を図る措置として1年間に履修登録できる単位数の上限を設定しているものの、その上限が50単位と高いことに加え、社会福祉学科の教職希望者と精神保健福祉士志望者には、その上限を超えて履修登録することを認めている。また、3年次編入生には履修登録できる単位数の上限を設定していない。加えて、教員による個別の履修指導を行っているものの、単位の実質化を図る措置としては十分ではない。これらのことから、単位制の趣旨に照らして改善が求められる。
	検討所見	1年間に履修登録できる単位数の上限が依然として50単位と高く、社会福祉学科の教職希望者と2年次・3年次の精神保健福祉士志望者には、その上限を超えて履修登録することを認めている。また、3年次編入生には履修登録できる単位数の上限を設定していない状況についても変化はない。加えて、単位の実質化を図るその他の措置はないとしていることから、単位制の趣旨に照らして引き続き改善が求められる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	学習成果を把握するため国家試験合格率や就職状況を用いているものの、学位授与方針に明示した学習成果を把握及び評価する取組みが十分に行われていないため改善が求められる。
	検討所見	学習成果を把握及び評価する取り組みとして、シラバスの見直しを実施したとしているものの、学位授与方針に示した学習成果を把握する取り組みとはいいがたく、引き続き改善が求められる。
No.	種 別	内 容

名寄市立大学

4	基準	基準8 教育研究等環境
	提言（全文）	<p>「ケア研究の拠点となる教育研究機関の創出」を目指して、「名寄市立大学教育研究等環境整備のための方針」を定め、そのなかで「教職員の研究時間を確保するために研究日の制度等を整備する」と掲げているものの、専任教員が研究に専念するための制度等の実現には至っていないため、研究時間の確保に向けた措置を講じるよう改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>教職員の研究環境の整備については、「内部質保証推進委員会」での検討の結果、「研究日の設定」から「研究支援」に方針を切り替えた。</p> <p>「研究支援」に関する具体的な取り組みとして、これまでに「研究時間の調査」を実施し、その結果に基づき学科長等会議で、各学科内で「業務の平準化」に取り組むよう周知しているものの、実施状況の確認には至っていない。</p> <p>また、2022（令和4）年度から学内委員会活動の業務負担軽減のため委員会の再編を行うことを決定しているものの、具体的な成果の検証は実施しておらず、研究時間の確保に向けた措置を適切に講じているとはいいたがいため、引き続き改善が求められる。</p>

◆ 再度報告を求める事項

なし

以 上